

## 文部省教員檢定豫備試験大正六年度問題

## 化 學 (四時間)

(一) 次の話の意義を記せ。

(イ) 溶體 (ロ) 相當狀態 (ハ) 透電恒數 (ニ) 分子磁場旋光

(ホ) 分子電解傳導度

(二) 溶媒の蒸發潜熱と分子沸點上昇との關係を導き次の問題を解け。

エーテル三〇・一四瓦に沃素〇・四五五九瓦を溶解せしに沸點三五・〇度より三五・一二六度に昇れりエーテルの蒸發潜熱を一瓦につき九〇・〇カロリーとして沃素の分子量を問ふ。

(三) 水空氣及び鐵を用ゐてアムモニアを工業的に製する方法を記せ。

(三) 硼素、アルミニウム、珪素を單體及び化合物につき比較して類似の點と異なる點とを挙げよ。

(五) モリブデン及ウオルフラムの原鑛製法性狀用途を記せ。

(六) 過マンガン酸カリウムの溶液及び純粹なる蓚酸を用ひて鐵鑛中の第一鐵及第二鐵を定量する方法を詳記せよ。

(七) フーゼル油とは何か其生因及主なる成分の分離法を問ふ。

(八) 尿酸の所在製法及び合成法を記し其構造式を證せよ

## 理科卒業生茶話會

大正六年八月九日上京中なる卒業生等相會し櫻蔭會事務所に於て茶話會を開く出席者下の如し

岩川先生 平田先生 近藤先生 平島先生

田中たま 栗山つな 鈴木 信 尾越つる

小高つや 池田トヨ 土取 福 光 雪枝

宮崎 素 山田松苗 芳尾里能 山崎ヨネ

深瀬 熊 中野ゆき 西浦はま 古市しづ

池田かめ 岡田けい 毛利あき 中澤琴路

高橋ふじ 和知てる 黒田ちか 保井この

會費領收報告 (自大正六年六月二十日  
至同年十月十日)

六 拾 錢 (6年分)

金上ヤイ 中城 駒 池田トヨ

壹圓貳拾錢

清水みづえ(7,8年) 齊藤ツネ(5,6年) 門田あき(5,6年)

風尾なつ(5,6年)

壹圓八拾錢

中井すゑ(8,9,10年) 高木 由(6,7,8年) 小川 淑(5,6,7年)

壹 圓

庄司みどり(6年殘金40錢)

貳 圓

尾形たけ(二回分) 西尾てつ(自明治四十三年  
四十五年)一部

五圓四拾錢

村田千代の(大正8年迄殘金40錢)

暑中休暇中御發送相成候分の内數部會計係不在なりし爲受付し者との間に於て不明の點これあり自然領收報告を致し兼ね候間此段惡しからず願上候尙申上兼候へ共七月以後御發送分にして本號に御姓名掲載洩の方は至急金額及御姓名等御報告下され度願上候。

## 會 計 係

御送金に關する會計係の希望

1. 御送金はなるべく暑中休暇冬期休暇の如き長期の休暇中を御さげ下されたく候兎角通知票會計係の手許迄達せざる爲めに種々の手数を要し候事度々これあり候
2. 振替にて御送金の節は必ず東京五九〇七に御拂込相成度候櫻蔭會の會費等と共に御拂込の方も稀にこれあり候へ共双方にて甚だ迷惑に御座候
3. 會費は過不足なく御拂込相成度候御参考迄に會費は左の如くに御座候

一ケ年分 明治四十五年迄は八拾錢

大正二年後は六拾錢

4. 毎年三月發行の會報には振替貯金拂込用紙に金高を記入して封入致置候間其節御送金下され候方最便利に御座候

大正六年十一月二十日印刷

大正六年十一月廿四日發行

(非賣品)

東京女子高等師範學校

學 術 談 話 會

理 科 部

東京女子高等師範學校内

編 輯 兼 人 平 島 權 藏

東京市京橋區新富町一丁目六番地

印 刷 人 江 澤 三 郎

東京市京橋區新富町一丁目六番地

印 刷 所 明 正 印 刷 株 式 會 社

電 話 京 橋 (三 五 〇 九) 番